

昭和58年
6月15日
発行
第100号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
(日赤新勞)
東京都港区虎の門3-24-7
(庚申ビル)
TEL 03-432-1089
発行責任者
掛井 巖

日赤新勞

綱 領
1. 吾々の労働生活は、社会正義の道に立って、労働生活の安定と向上を期す。
2. 吾々の労働生活は、常に健全な発展を遂げ、社会の発展に貢献する。
3. 吾々の労働生活は、赤十字の人道精神に基づき、社会の発展に貢献する。

58年5月15~16日 於・浜名荘

58年第1回中央委員会開く

五十八年度ベア実現に向け

賃金闘争態勢を確認

自然環境に恵まれ、周囲百キロの浜名湖は静かではあるが、絶えず表情を変えながら訪れる人々にやすらぎを与えてくれる。折しも潮干狩りたけなわの静岡県浜名郡舞阪町の「浜名荘」において、五月十五日、十六日の二日間、五十八年度第一回中央委員会が全国各地の新労働組合連合会、中央委員、オブザーバー及び本部役員等多数参加し、盛大に開催され、五十八年度ベアを中心に、夏期手当についても活発な審議が行なわれた。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

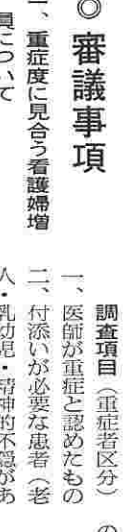
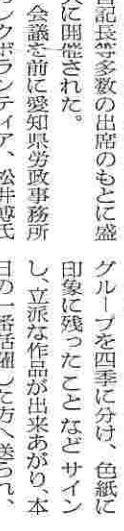
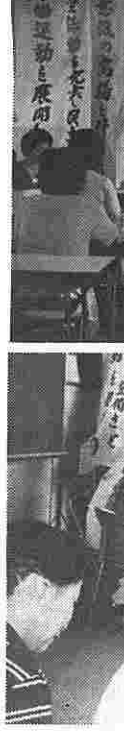
第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一日目の十五日は午後二時開会、同五時まで三時間にわたる新労働組合の理解を求めると共に、各専門部会(組織、教育、調査)を開催、本年度各部会の活動方針等について熱心に討議された。特に調査部会は過去の調査資料を検討し、本年度の調査項目の決定を他部会に先がけて開催した。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。



婦人部代表者会議(上)と参加者の皆さん

第一ブロック
氏名 所属単組 担当
赤坂義徳 盛岡日赤 調査
樋口修雄 福島日赤 組織
渡辺 尚 福島支部 教育
菅野フジ子 岩手血セ 教育
第二ブロック
鈴木 栄 前橋日赤 組織
小川浩治 大田原日赤 教育
菊地美千夫 芳賀日赤 教育
細矢 勝 足利日赤 調査
町田 充 原町日赤 調査
牧田道明 浜松日赤 組織
鶴岡 博 千葉血セ 調査
第三ブロック
梅村正一 名二日赤 調査
森 一博 名二日赤 組織
金井一彦 飯山日赤 組織
大江 融 愛知血セ 教育
田村 登 愛知支部 調査
第四ブロック
樹下成徳 大津日赤 調査
第五ブロック
青山圭一 岡山日赤 調査
川島 環 鳥取日赤 教育
森田英則 三原日赤 教育
野口節子 岡山血セ 調査
佐賀克己 徳島血セ 調査
第六ブロック
実藤春夫 福岡支部 調査
渡辺康喜 唐津日赤 組織

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第一ブロック
氏名 所属単組 担当
赤坂義徳 盛岡日赤 調査
樋口修雄 福島日赤 組織
渡辺 尚 福島支部 教育
菅野フジ子 岩手血セ 教育
第二ブロック
鈴木 栄 前橋日赤 組織
小川浩治 大田原日赤 教育
菊地美千夫 芳賀日赤 教育
細矢 勝 足利日赤 調査
町田 充 原町日赤 調査
牧田道明 浜松日赤 組織
鶴岡 博 千葉血セ 調査
第三ブロック
梅村正一 名二日赤 調査
森 一博 名二日赤 組織
金井一彦 飯山日赤 組織
大江 融 愛知血セ 教育
田村 登 愛知支部 調査
第四ブロック
樹下成徳 大津日赤 調査
第五ブロック
青山圭一 岡山日赤 調査
川島 環 鳥取日赤 教育
森田英則 三原日赤 教育
野口節子 岡山血セ 調査
佐賀克己 徳島血セ 調査
第六ブロック
実藤春夫 福岡支部 調査
渡辺康喜 唐津日赤 組織

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

第二日目の十六日、開会宣言、資格審査成立確認の後に議長の各部署より、これまでの報告が行われた後に中央書記長から定例会議の報告が行われ、本年度の共同行動の進捗状況が報告された。また、共同行動の進捗状況が報告された。

婦人部代表者会議 5月29日

重症者に看護婦増員問題等を討議

五月二十九日、三十日の二日による婦人部リーダーのレク指間、伊勢湾と三河湾に突き出す南北に長い知多半島、島の中心部に位置し、夏の海の表情をただよわせている内海海岸を前に、愛知県知多郡「美浜ユースホステル」において、婦人部代表者会議が、代表者及びオブザーバー、中央執行委員長、中央書記長等多数の出席のもとに盛大に開催された。

五月二十九日、三十日の二日による婦人部リーダーのレク指間、伊勢湾と三河湾に突き出す南北に長い知多半島、島の中心部に位置し、夏の海の表情をただよわせている内海海岸を前に、愛知県知多郡「美浜ユースホステル」において、婦人部代表者会議が、代表者及びオブザーバー、中央執行委員長、中央書記長等多数の出席のもとに盛大に開催された。

審議事項

一、重症者に看護婦増員について
二、付添いが必要な患者(老人・乳幼児・精神的不調があるもの)
三、手術後の患者
四、日常生活介助が必要な患者
五、その他

以上、各項目別に入院患者延数と看護婦員延数を八月を調査月として十月十五日までに報告。

四、女子の昇格及び定年制実施における男女平等について

各単組の実情報告をし、それぞれ実態を把握。

五、その他

夜勤時の仮眠時間、時間外手当の処理方法、午後の休憩時間、休日出勤手当等の各単組との意見交換を行った。

日赤新労機関紙100号特集号

発行100号を祝して

初代執行委員長 小崎 寿美男



小崎 寿美男氏

も、その頃の執行部の方々は、並み給与が定着し、年金制度も有形無形の支援を受けて下さったお蔭で、過ぎに昔を振り返りながら、しみじみありがたが確立され、まことに嬉しく、懐しく思い出しています。

だが、ここに至る険しい道は、現在の川出富治執行委員長もよくご存知のことです。朝一夕のことではなく、皆さんが長い地道な努力の結果だと思えます。どんな仕事もたえずの努力なしに成果は得られません。組合運動も経営者との対峙の中で、一歩一歩努力を積み重ね、組合員の利益を確立して行くべきだと思います。

小なりといえ、病院の経営者たる私が、この一文を記したためまして少し奇異な感をもたれたことでしょうか、生み育てた日赤新労の元一員として、形骸で、誰が経営者であるの

か、いわゆる「資本家労働者」というような短絡な考えでは対処できない企業であるだけに、組合運動も困難な点が多いと思います。

機関紙九十九号にて新執行部の顔写真を拝見致しました。川出富治執行委員長を除いて、皆さんお会いしたことのない方々ですが、どなたも若々しく一騎当千のつわものとお見受け致しました。豊かな時代の、しかも日赤相手の組合運動は何かと行きつ戻りつ、もどかしくなったりするのでしょうか、必ずどこかに活路があるものです。

どうぞ、中央執行部だけでなく、単組の方々も含めて活路を求め、文字通り一致団結、前進されることを願っています。

昭和三十三年六月、第十三回定期大会においては、山田日赤から組織強化の対策として上位団体加盟の勧誘が提出された。討議の結果採決されたが、三十五単組中賛成二十一、反対十四で上位団体加盟は否決された。翌年三十四年五月、第十四回定期大会が開催された。この大会において経過報告の過程で名古屋第一単組は単組の決定に従って、総評加盟に反対の立場を明らかにしてオルグを開始した。このことは全日赤の方向にそわないとして、名古屋第一単組を除名処分すると同時に、規約改正を行った。即ち、三分の四以上を過半数と改正して総評加盟を実現した。これによって六月に渡るストを繰り返し、一部は病院閉鎖し、また一部には経費に話し合いを見た病院も現れた。

この高松大会で全日赤は声明を発表して、名古屋第一単組の組合長石黒一男を非難、攻撃をした。昭和三十四年五月二十八



結成大会であいさつする新役員(上)と会場をうづめた全国の参加者(下)

新労結成までの経過

全日赤労組は、昭和二十一年三月に結成された。そして日本赤十字社の機構の民主化と取り組み、一方、全労ともともに日本医療従事者の中核として活躍してきた。結成して十年間は内部組織の強化に努力すると同時に、内部の整備に尽力した。即ち労働協約の締結、人事委員会規則、給与委員会規則、就業規則等にも努力をした。その後、全日赤が左旋を開始した。

昭和三十一年五月の臨時大会に総評加盟の問題が集中した。その時、全日赤内部には容共左派分子が多数を占めるようになったが、未だ規約によって加盟にまでは至らなかった。しかし一部単組では地評に加盟する動きもあつて加盟したのもでてきた。

昭和三十三年六月、第十三回定期大会においては、山田日赤から組織強化の対策として上位団体加盟の勧誘が提出された。討議の結果採決されたが、三十五単組中賛成二十一、反対十四で上位団体加盟は否決された。翌年三十四年五月、第十四回定期大会が開催された。この大会において経過報告の過程で名古屋第一単組は単組の決定に従って、総評加盟に反対の立場を明らかにしてオルグを開始した。このことは全日赤の方向にそわないとして、名古屋第一単組を除名処分すると同時に、規約改正を行った。即ち、三分の四以上を過半数と改正して総評加盟を実現した。これによって六月に渡るストを繰り返し、一部は病院閉鎖し、また一部には経費に話し合いを見た病院も現れた。

この高松大会で全日赤は声明を発表して、名古屋第一単組の組合長石黒一男を非難、攻撃をした。昭和三十四年五月二十八

る組合員の不平不信の声をほうはいとして起るであろう。組合員の未熟についで常に針小棒大な宣伝を行い、マルクス一点張りの観念的階級闘争論をもつて未熟な代議士を丸め込み、スズルと彼等(本部書記、竹内茂輔(名古屋第一)、鬼頭幸男(名古屋第一)であった。)

同年十二月十日には、唐津赤十字病院第一職員組合が起る人代表による「唐津赤十字病院職員組合の権限に訴える。何故、私達は唐津赤十字病院第一職員組合を結成するから」というパンフレットが出された。

その内容によれば「私達の利益を守り、私達を代表すべき執行部は、少数専制をもちろむ一部幹部に牛耳られ、組合員もまたウソと謀略にめられた彼らに引きずり回されているのが今日の組合の姿だと私達は見ています。一部幹部による専行は私達に与えられた正常な組合活動を冒すものであり、私達の権利と義務を破かいへ導くのみで決して許されるべきではありません。勇気を出しましょう。」

私達は彼等と決別し、本単組機関がうたい文句の政治闘争、階級闘争を今、私達が展開している経済闘争に持ちこたれ、でもしたら、蜂の巣をわきまてはならないでしょう。

それなのに、病院の実態も知らぬ上部機関の指示を無批判に受入れ、組合員を強引に引きつっていかうとする一部幹部の存在は、上部機関に口をさしはさむ機会をおたえ、私達の職場を破かいに導く闘争の広場に供しようとする以外の何ものでもないことを確信しております。私達で作った組合は、自主的であり、民主的であり、組合員の真の幸福のための組合であり、一部幹部の専断を許す組合ではなかつた筈です。

それが私達の手を離れてゆつて行動を開始する。昭和三十四年六月十一日、同志を統合し、名古屋第一赤十字病院内日赤会館において、日赤医療従事者組合連合会を結成し、連合会の運動方針に向けて前進することをおこに声明した。

日赤医療従事者組合連合会は、ここにその礎を築いた。その活動の目的は、組合員に押し付けるためには、規約も知らぬ顔で破るなど手段を選ばない、卑劣なやり口です。(中略)

私達の職場は尊い人命を預かる病院です。一般市民の信頼があつてこそ病院が成り立ち、存在するのにも、もう私達の今度の闘争は市民の内に批判と動揺を招き、不信の声を起らして、私達の権限はどう感じられているのでしょうか。(中略)今こそ勇気を出して、ふさがれた目を開き、耳をそばたて、病院の本当の姿、組合の在り方、私達を見守る患者さん、市民の皆さんの声を知らねばなりません。(中略)

勇気を出さない、勇気を出さないう、私達は脱退の自由を求めます。今度こそ迷ってはいけません。欺されてはなりません。勇気を出しましょう。

私達は彼等と決別し、本単組機関がうたい文句の政治闘争、階級闘争を今、私達が展開している経済闘争に持ちこたれ、でもしたら、蜂の巣をわきまてはならないでしょう。

それなのに、病院の実態も知らぬ上部機関の指示を無批判に受入れ、組合員を強引に引きつっていかうとする一部幹部の存在は、上部機関に口をさしはさむ機会をおたえ、私達の職場を破かいに導く闘争の広場に供しようとする以外の何ものでもないことを確信しております。私達で作った組合は、自主的であり、民主的であり、組合員の真の幸福のための組合であり、一部幹部の専断を許す組合ではなかつた筈です。

また一方、昭和三十四年十二月十六日、水戸赤十字病院有志代表は、脱退声明書「何故我々は組合を脱退するか」が発表されております。「国破れて山河あり、城春にして草木青し」と

た。昭和三十四年五月二十八日、全日赤本部に對するな事を組合員に素直に報告されたならば、全日赤本部に對する組合員の不信は、何物にも

(以下、三面につづく)

(二面よりつづく)

はけだし今は意味のない古言のみでしようかと書き始めてみる。『皆さん、我々は水戸赤十字病院従業員組合の一員として、今日まで病院の発展のために、そしてまた、全従業員が明るく働きよい職場を作るために、皆さんと共に考え、そして行動を共にして来ました。しかし、遂に心ならずも我々は、皆さんと決別を分ち、組合を脱退することを決意するに至ったのです。それは、もはやこれ以上現在の組合に留まることは我々の志願している理念を実現することは不可能であり、我々が現在の組合に在る意味がなくなったと確信するに至ったからであります。我々の理念とは何んぞしよるか。我々病院従業員はあくまでも医療業務に従事するものであるということと、そこに自ら我々従業員が働いている世界の意味づけと方向が決定されるのです。我々の職場は病み悩める人々のために、より良き治療を看護にあたえ尊い人命を預り育てる場であるということとあります。

皆さん組合員の大部分の方には、御承知のように現在の組合の進まんとする方向は最早、水戸赤十字病院全従業員の自主的かつ民主的な組合ではなくなつてしまひ、余りにも偏局的な上部機関と、病院という世界の事態を知らない外部団体に完全に操られ、牛耳られているへかいらいにすぎなくなつてはいるのです。(中略)

皆さん、病院が窮地に陥ちつつある時に、我々従業員の生活が危くなつた時に、一体誰が真に助けしてくれるのです。我々従業員が働かないで、何処から月給が来るのです。病院は他のものではない。そこに働く人々のものです。そして、組合はそこに働く人々のためにあるのです。我々は健全な我々の組合が絶対に必要なのです。それでこそ一致団結して経営者に対してゆけ

るのです。しかし病院が労働戦線の政治闘争や階級闘争の場にまき込まれてはならないと思ひます。(中略)

しかし今、我々は現在の組合から去つてゆこうとしており、再び叫ぶ、我々は病み悩める人々のための医療業務に従事するものであるということと、そこにこそ我々の基礎理念があるということとであります。しかし残される多くの皆さんも、所詮は病院を愛し健全な組合の発展を望んでいられるものと信じます。」と結んでおられます。

昭和三十三年二月一日、日本赤十字病院協会の発足に際して、赤十字病院協会の母体作りに成功した。

昭和三十三年九月二日、伊勢市神宮会館において統一協議会総会を開催した。議長に浅井広士、副議長に三浦吉吉(山口赤十字病院)が選出され、一般経過報告を小崎寿美男氏(山田日赤)・統一協議会会長が行ひ、事務局長・山田利次氏(武蔵野日赤)の中間決算報告があった。その後、新労働組合結成の件について討議が重ねられた。採決の結果、満場一致で新労働組合結成が決定された。

引続いて協議会を、新組合結成準備委員会に切り換え討議する提案がなされた。組合規約草案、運動方針案、大会宣言案、役員選挙案及び大会運営などの各小委員会に附託した。

九月三日午前八時三十分、解散声明文を、小崎会長が、職組連合会を代表して関根組合長がそれぞれ読みあげ、万来の拍手の中、統一協議会が発展的解散を告げた。九月三日午前十五時十分、日本赤十字新労働組合連合会結成大会に移った。

議長団に石黒一男氏(名古屋第一)、関根清氏(日本赤十字)、増田よし子氏(浜松日赤)の三氏が選出され、石黒議長が、関根副議長が、石黒議長に代り、労働協約の早期締結を計る。

昭和三十三年三月、新労働第一回定期大会開催される。於て東京社会事業会館、運動方針基本要項(三本柱)を決定する。

一、賃金体系は人事院勧告制度による。国家公務員給与と追いつき、追越す運動を基調とし、一、日赤年金制度の確立推進強化。

一、保育所等の福利厚生施設の拡充について。

役員選出も行われ、小崎寿美男(山田日赤)が委員長に再選され、副委員長・水成進一(水戸日赤)に代り、高畑春男(兵庫東支部)、会計・入山和次(武蔵野日赤)に代り、村岸義則(名古屋第一)にそれぞれ改選された。

本社は昭和二十年以降、全国的に一〇〇施設の赤十字病院を目的に開設してきたが、昭和三十四年以降、全日赤のストライキにより(全日赤は企業はつぶれずとも労働組合はつぶれないと組合員にアピールしたが現実には)

山形県 東根日赤病院
静岡県 稲取日赤病院
奈良県 奈良日赤病院
広島県 糸崎日赤病院
等が閉鎖した。また、三重県 鈴鹿日赤病院(財政困難により自然閉鎖)
長崎県 五島日赤病院(県に移管)
岡山県 玉野日赤病院(岡山日赤病院に合併)
東京都 日赤産院(医療センターに合併となり、明治時代 創立九病院
大正時代 創立十九病院
昭和二十年以前 創立二十四病院、昭和二十年以降 創立四十一病院 現在の赤十字病院計九三病院
血液センターについては、昭和三十九年十月一日開設から五十五年四月一日現在までに開設したのも五九施設である。
支部については、都道府県に明治二十年に設立されている。乳児院(肢体不自由児施設)については十九カ所である。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

閉じた。

歴代執行委員長・書記長名

書記長は
機関紙発
行責任者

- 初代委員長 小崎寿美男 (山田日赤)
- 初代書記長 村上邦夫 (日赤本社)
- 第五期書記長 山景勇 (鳥取日赤)
- 第九期書記長 佐藤一男 (宮城県支部)

- 第二期委員長 吉原三郎 (前橋日赤)
- 第二期書記長 前川功 (医療センター)
- 第六期書記長 宮野政夫 (新潟血液センター)
- 第十期書記長 星野馨 (茨城血液センター)

- 第三期委員長 川島亮介 (大田原日赤)
- 第三期書記長 吉原三郎 (前橋日赤)
- 第七期書記長 青山圭一 (岡山日赤)
- 第十一期書記長 掛井巖 (浜松日赤)

- 第四期委員長 川出富治 (名古屋日赤)
- 第四期書記長 川島亮介 (大田原日赤)
- 第八期書記長 等々力重信 (愛知血液センター)



川出 富治 (名古屋日赤)



川島 亮介 (大田原日赤)



等々力 重信 (愛知血液センター)



川島 亮介 (大田原日赤)



吉原 三郎 (前橋日赤)



青山 圭一 (岡山日赤)



掛井 巖 (浜松日赤)



吉原 三郎 (前橋日赤)



前川 功 (医療センター)



宮野 政夫 (新潟血液センター)



星野 馨 (茨城血液センター)



小崎 寿美男 (山田日赤)



村上 邦夫 (日赤本社)



山景 勇 (鳥取日赤)



佐藤 一男 (宮城県支部)



歴代役員名

結成大会

(昭和三六・九・四)

副執行委員長

水成 進一 水戸日赤

吉原 三郎 前橋日赤

入山和太次 武蔵野日赤

會計監査

辻 義次 大阪支部

熊岡 泰雄 浜松日赤

第一回定期大会

(昭和三七・四・一)

副執行委員長

吉原 三郎 前橋日赤

高畑 春男 兵庫支部

會計監査

村岸 義則 名一日赤

熊岡 泰雄 浜松日赤

辻 義次 大阪支部

第二回定期大会

(昭和三八・四・二)

副執行委員長

長田 宏平 水戸日赤

川出 富治 名一日赤

會計監査

村松彦也 太浜松日赤

菊地 克雄 盛岡日赤

山崎 薫 奈良支部

第三回定期大会

(昭和三九・四・二)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

兼松 己一 福岡支部

執行委員

千種 重樹 水戸日赤

久保田慶吉 盛岡日赤

増村 糸夫 三重支部

松下 雅章 長崎原爆

山崎 薫 奈良支部

横山 幸夫 浜松日赤

執行委員

横山 幸夫 浜松日赤

第四回定期大会

(昭和四〇・五・二六)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

松下 雅章 長崎原爆

北村 雄司 愛知支部

山崎 薫 奈良支部

横山 幸夫 浜松日赤

佐藤 春枝 前橋日赤

第五回定期大会

(昭和四一・五・一〇)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

山川 茂 岡山日赤

北村 雄司 愛知支部

執行委員

定久 正夫 愛知支部

加藤 勝 浜松日赤

原 貴佐子 名一日赤

宝蔵寺福見 福岡支部

執行委員

定久 正夫 愛知支部

加藤 勝 浜松日赤

原 貴佐子 名一日赤

宝蔵寺福見 福岡支部

第六回定期大会

(昭和四二・五・二四)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

堀江 直樹 水戸日赤

北村 雄司 愛知支部

執行委員

北村 雄司 愛知支部

竹田 亮正 前橋日赤

山景 勇 鳥取日赤

藤井 克治 浜松日赤

服部 昭一 名二日赤

原 貴佐子 名一日赤

久保田慶吉 盛岡日赤

若山 義郎 東京支部

第七回定期大会

(昭和四三・四・二二)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

堀江 直樹 水戸日赤

北村 雄司 愛知支部

執行委員

北村 雄司 愛知支部

服部 昭一 名二日赤

大坪 敏之 福岡支部

川越 功 浜松日赤

吉村 政一 大津日赤

竹洞 恵子 八戸日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第八回定期大会

(昭和四四・四・二二)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

吉村 政一 大津日赤

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

石松 順一 今津日赤

服部 昭一 名二日赤

小川 幸雄 中央病院

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第九回定期大会

(昭和四五・四・二二)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一〇回定期大会

(昭和四六・四・二七)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

吉村 政一 大津日赤

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

石松 順一 今津日赤

服部 昭一 名二日赤

小川 幸雄 中央病院

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一一回定期大会

(昭和四七・四・二六)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一二回定期大会

(昭和四八・四・五七)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一三回定期大会

(昭和四九・二・二四)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一四回定期大会

(昭和五〇・二・一六)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一五回定期大会

(昭和五一・二・二三)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一六回定期大会

(昭和五二・二・二〇)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一七回定期大会

(昭和五三・二・一九)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

早川 清也 前橋日赤

青山 圭一 岡山日赤

吉田 京子 盛岡日赤

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

執行委員

山本 肇 唐津日赤

岡 義郎 石巻日赤

第一八回定期大会

(昭和五四・二・二五)

副執行委員長

川出 富治 名一日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部

執行委員

吉村 政一 大津日赤

宮野 政夫 新潟血七

鈴木 豪随 愛知支部